

**講演名：**講演会 「儲かる 知的財産権」  
**日時：**平成20年5月21日（木）15:00～17:00  
**会場：**きょうさいサロン  
**講師：**(社)発明協会北海道支部 専務理事  
堀川代志郎 氏

**参加者：**36名

**講演概要：**

今回の北の技術講演会は、「儲かる・知的財産権」題して、(社)発明協会北海道支部専務理事の堀川代志郎氏に御講演いただきました。

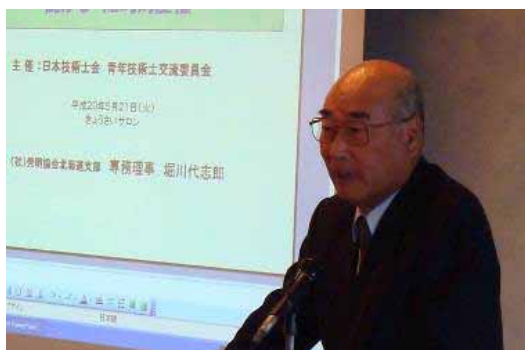
堀川さんは三菱自動車関連会社である北海道車体工業(株) (株)パプコ北海道で30年間新製品・技術開発に取り組み独自の経営戦略で同社を全国グループNo.1企業に育てました。

現在発明協会専務に就任し、豊富な人脈で知的財産権の普及啓発に取り組んでおられます。

**【講演要旨】**

技術を守るべき

日本の技術は中小企業に支えられてきたが、その中小企業の経営者の年齢は全国平均で57歳、北海道では59歳(2006.帝国データバンクより)と高齢化している。



**【講演される堀川氏】**

日本の技術力を維持するためには、次世代経営者へ技術力を伝えていく必要がある。研究成果や技術は、見て盗む、秘伝のノウハウで継承するものと「特許で守る」ものがある。

最近技術が軽く見られている傾向にあり、せっかく技術士を取得しても技術から離れていく人が多いのではないだろうか。会社の体質悪化として、スタッフが強くなると会社が悪くなりがちであるから、技術者はもう少し大きな声で自信を持って技術力を強化・発揮すべきである。

少年少女の発明サポートの強化すべき

少年少女向けの発明サポートは全国的に増加傾

向にあるが、北海道は資金難や人材不足によってほとんど増加していない。むしろ教育委員会の支援打ち切りによって少年少女発明クラブなどが平成4年から比較すると半分から1/3までに減少している。

北海道の発明技術は悪くない！

産業財産権の活用企業百選では、北海道の企業が全国100社中10社と10%を占めていることや、第二回ものづくり日本大賞では、北海道の企業が全国100社中11社も選ばれている。

出願手続きは楽になった

特許の出願は、多くの場合縦割り行政であることが原因で非常に申請が面倒だった。2005年7月に、北海道知的財産情報センターが北海道知的財産戦略本部内に設立し、縦割りだった申請を一括化、特許の申請がしやすくなった。

儲かる知的財産権

知的財産権は、取得するのが目的ではなく、取得することで商品の開発・生産・販売が有利になるようにサポートすることが本質である。

**【感想】**

私は技術開発といえばシャープを思い出します。

1912年に資本金50円従業員3名で創業、

1915年にシャープペンシルが欧米で大ヒット

1925年に国産ラジオ第一号、

1929年に真空管ラジオ発売、

1953年国産第一号テレビ

1964年世界初電卓

1973年に世界初液晶電卓

1989年省電力コードレス留守番電話機

1993年にザウルス

1999年に大画面液晶テレビ

1999年にカメラ付き携帯電話

2000年に折りたたみ方式携帯電話

2001年にAQUOS

と、次から次へと発明しております。シャープ創業者の経営哲学が「まねされる商品をつくれ」ですから驚きます。

堀川講師によると、北海道の産業財産権も悪くないとのことですから、やはり焦点になるのは、ここでも次世代の技術者育成になってしまうのかなと感じました。

(文責：青年技術士協議会 米川 康)